

第4回

北九州市部活の未来を考える会

令和5年10月31日（火）

北九州市教育委員会

○部活動地域移行に関するアンケート調査結果

「部活動地域移行に関する
アンケート調査結果」

別紙参照

○ 「指導者の確保」

「指導者の確保」

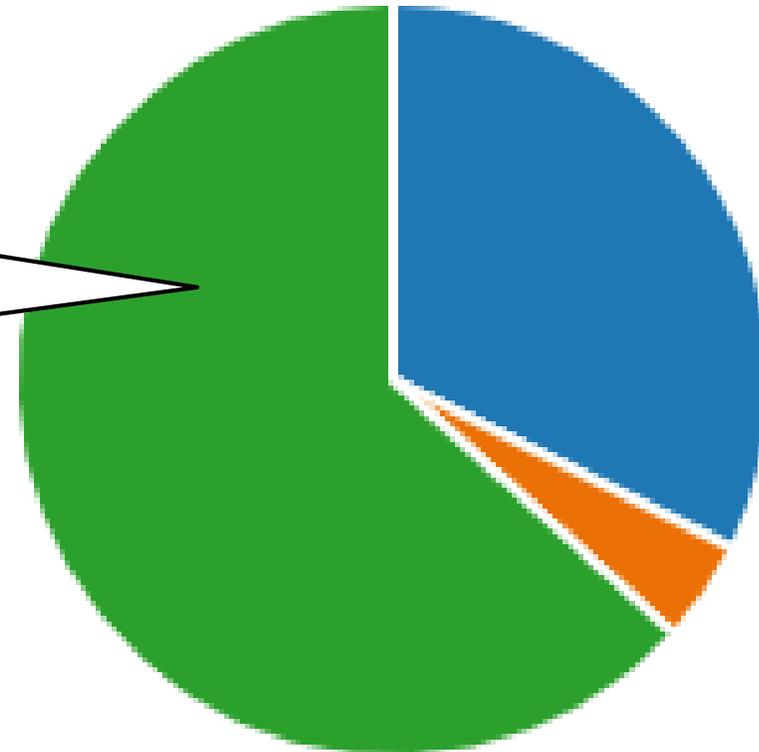
○ 「指導者の確保」

○ 部活動地域移行に関するアンケート調査（教員用）

※速報値 ※回答者数 1155人

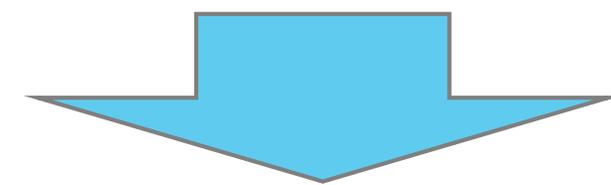
Q 報酬が支払われるなら、地域移行後も指導したい
と思いますか。

報酬が支払われても、
指導したくない
63%



○ 「指導者の確保」

○ R5 運動部数 382部
+ ⇒ 564部
○ R5 文化部数 182部



564部の63%
⇒ **355部**

○ 「指導者の確保」

スポーツ庁・文化庁有識者会議の提言概要より

<p>スポーツ指導者の質・量の確保方策 (第4章)</p>	<p>・専門性や資質を有する指導者の量を確保する必要がある。</p> <p>・教師等の中には専門的な知識や技量、指導経験があり、地域でのスポーツ指導を強く希望する者もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none">○ 指導者資格の取得や研修の実施の促進。JSPOは、競技団体等が主催する大会において、公認スポーツ指導者資格の取得を義務付け。○ 部活動指導員の活用や、教師等による兼職兼業、企業・クラブチームや大学からの指導者の派遣、地域のスポーツ団体等と連携した人材バンクの設置など。指導者の確保（適切な対価の支払い等）のための国の支援方策の検討。○ 希望する教師が円滑に兼職兼業の許可を得られるよう、国は許可の対象となり得る例を周知するとともに、教育委員会は兼職兼業の運用に係る考え方等を整理。
<p>文化芸術団体等の整備充実 ・ 指導者の質・量の確保方策 (第3章)</p>	<p>・どの地域においても、受け皿となる文化芸術団体等の整備充実が必要だが、地域文化芸術団体と中学校等との連携が十分でないところが多い。</p> <p>・専門性や資質を有する指導者の量を確保する必要がある。</p> <p>・教師等の中には専門的な知識や技量、指導経験があり、地域での指導を強く希望する者もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none">○ 国は各地方公共団体における取組の参考となるよう、連携や支援の在り方について先進的に取り組んでいる事例をまとめ提供。○ 中学生を受け入れる文化活動等の実施に対して、現在の文化部活動の地域移行に向けた事業の充実を含む必要な予算の確保を検討。地域の実情に応じた支援体制の整備。○ 指導者資格の取得や研修の実施の促進など地域の実情に応じた次世代の指導者育成の仕組みづくりの推進。○ 部活動指導員の活用や、教師等による兼職兼業、地域の文化芸術団体などと連携しての指導者の派遣、人材バンクの設置など。指導者の確保（適切な対価の支払い等）のための国の支援方策の検討。○ 希望する教師が円滑に兼職兼業の許可を得られるよう、国は許可の対象となり得る例を周知するとともに、教育委員会は兼職兼業の運用に係る考え方等を整理。

○ 「指導者の確保」

学校部活動及び新たな地域クラブ活動の 在り方等に関する総合的なガイドライン

- スポーツ・文化芸術団体の指導者のほか、部活動指導員と
なっている人材の活用、退職教師、教師等の兼職兼業、企業
関係者、公認スポーツ指導者、スポーツ推進委員、競技・
活動経験のある大学生・高校生や保護者、地域おこし協力隊
など、**様々な関係者から指導者を確保**する。
- スポーツ・文化芸術団体等の協力を得ながら、指導者の
発掘・把握に努め、求めに応じて指導者を紹介する**人材バンク**
を整備するなど、地域クラブ活動の運営団体・実施主体による
指導者の配置を支援する。

○ 「指導者の確保」

「スポーツ部会まとめ」

○ スポーツ部会まとめ

指導者の確保に関する課題①

- ・ 団体によっては、指導者の派遣ができない
- ・ 保護者の理解を深めるために、具体的な内容を明確に伝えるべき
- ・ あまりにも突発すぎで、体制が整っていない
- ・ 示されている図だけでは今後の姿が見えない
- ・ （費用や場所など）形がはっきりしないと、協力体制も構築しにくい

生徒・保護者・教員はもちろん、
関係団体・市民へ具体的な内容の
周知が必要

○ スポーツ部会まとめ

指導者の確保に関する課題②

- ・ 時間や内容等のカリキュラムの設定があれば派遣可能
- ・ 教育が専門ではないため、カリキュラムの設定はしてほしい
- ・ (大学では) 実習等に位置づけるなど、制度設計が必要
- ・ 派遣した指導員の管理に苦慮するのではないか
- ・ 中学生の指導となると、責任がもてないのではないか
- ・ 指導者を登録制にして派遣するなど、制度設計が必要
- ・ 指導者・生徒・場所などを、どうつなげていくのか

派遣についての制度設計をするとともに、人材バンクのような登録システムが必要

○ スポーツ部会まとめ

指導者の確保に関する課題③

- ・ 本市の目標を明確にして、北九州市でのあるべき姿を議論すべき
- ・ 部活動地域移行だけに捉われず、北九州のスポーツシーンをどうしていくのか
- ・ 中学生は、市外、県外にスポーツの場を求めて流出していく

単に部活動地域移行だけの議論ではなく、北九州のスポーツシーンをどうするのかについても考えることが必要

○「指導者の確保」

「カルチャー一部会まとめ」

○ カルチャー部会まとめ

指導者の確保に関する課題①

- ・ どのような形であれば協力できるかを検討するためにも、各団体に周知してほしい
- ・ 保護者をどう巻き込むかがポイント
- ・ 市内には、様々な団体があるが部活動地域移行について周知されていない

関係団体の協力を得るためにも、
周知の場を設ける必要

○ カルチャー部会まとめ

指導者の確保に関する課題②

- ・ 指導者派遣の制度が整備されると学校側も安心
- ・ 制度設計ができれば派遣しやすい
- ・ 指導者も団体も、市の登録制にするのがよい
- ・ セクハラなどの防止のため、資格を取得することや責任の所在を明らかにする必要
- ・ 毎日なのか、週に数回なのか、土日のみなのか、全体像が見えない

派遣についての安全・安心を確保するために、登録制度などを整備する必要

○ カルチャー部会まとめ

指導者の確保に関する課題③

- ・ 中・高ともに吹奏楽人口が減少している
- ・ 施設を使用する際の決まりごとが施設によって異なる
- ・ 発表する場がない
- ・ 市内に様々な団体に参加できる方法も模索
- ・ 地域の活動にするのであれば、「する」、「知る」、「みる」、「支える」など、文化シーンの盛り上げも必要

北九州市のカルチャーシーンの衰退を危惧
様々な視点で地域移行を捉えることが必要

○ 「指導者の確保」

【方向性】

- 部活動地域移行にあたって、一定数の指導者の確保が必要

【具体的な内容】

- 部活動地域移行について、大枠を決定し、
生徒・保護者・学校はもちろん、関係団体や
市民に向けて周知する必要があるのではないか
- 安全・安心な活動にするために、確保した人材を
登録するような制度設計が必要ではないか
- 単に、部活動を地域移行する機会ではなく、
北九州のスポーツ・文化シーンの未来につながる
ものにする必要があるのではないか